



みなと

みなと 68号

2023年12月1日

兵庫県声の図書赤十字奉仕団

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-4-5

日本赤十字社兵庫県支部内

(Tel) 078-241-9889 (Fax) 078-241-6990

代表者 中島久美子

編集者 土岐淑子

猛暑日が続き11月まで夏日だった今年の夏、新型コロナに加えインフルエンザの感染も拡大しました。そんな中でもボランティアルームにはいつも団員の姿がありました。そんな日頃の団員の活動に対して“令和5年度兵庫県赤十字社有功賞、特別奉仕団員表彰”が贈呈され、11月24日兵庫県公館において贈呈式が行われました。一部の方ですが受賞された方達の感想をいただきました。



銀色有功賞受賞(15年) 上原恵子さん(ともしび)

JR西宮にある、NHK学園の朗読講座に通い始め、元アナウンサーの平林先生から、日赤ボランティア【あかりの会】のことを聞きました。読書が好きで録音することに興味を持ち、会社勤めなので「日曜に行きます!」と言うと先生は「日曜に入るなんて大変だよ～」と心配してくれました。16年ほど前、テープの時代です。

実力もないのに初めから単行本なんて、【こすもす】の池内さんにご苦勞をおかけし、一から丁寧に指導していただいて本を出すことができました。声の奉仕団の皆さまはどなたも親切に教えてくださるし、支部の皆さまもいつも快く協力して下さいます。日赤は優しいさわやかな空気が流れている気がします。助けていただいて続けることができました。

ボランティアに一步踏み込んだら、リスナーさんとの距離が近くなりました。交流会の電話案内も初めはドキドキでしたが、「うちはまだかいな～」と楽しみに待っておられる方や、「本人はベッドで一日中聞いています」と奥さんが教えてくださることも。趣味の話で盛り上がることもありました。交流会のおかげで、参加される方のお顔もだんだん覚ええました。

2013年、初めての表彰式に出席しました。【あかりの会】の仲間と兵庫県公館へ。明治時代がしのばれる迎賓館で貴重な体験をさせていただきました。懐かしい思い出です。

それから10年、今は【ともしび】でお世話になっています。皆さんは長く佐伯先生に学んでこられたけど、私は遅れています。パソコン編集や、アクセントなど指導してもらいます。なかなか上手く読めません。楽しみに聞いていただけるのはいつの日か…道は遠いけど、たくさんの学びと元気をもらいました。多くの皆さんとの出会いに感謝しています。

金梓感謝状(10年) 折野八千代さん(賛助会員)

“日本赤十字社 兵庫県支部賞状に感謝して”

この度は名誉ある賞をいただきまして、ありがとうございます。ほんとに「何故」と思っばかりです。

そのあと浮かんできてくるのは出会いです。当時の兵庫県立盲学校に在籍していた時に、テープライブラリーだったかな、利用登録をし、読者となりました。

その頃はオープンテープに録音され、次はカセットテープに録音となり、今はCD録音に、歴史と共に変わってきました。

それぞれのグループが新聞やPHP、雑誌の中から選び、またインタビューや観光地レポートなど、新刊図書案内も入った1枚の「日赤声のアルバム」を、希望者に貸し出しをされています。この中にはいろいろなものが入っているので、視覚障がいの人にとっては大きな「情報のアルバム」となっています。一方で話題の小説や時代小説もあり、楽しむことができます。

これらすべてが、奉仕というかたちで多くの人の手、時間をかけての制作に感謝の気持ちがいっぱいです。これからも引き続きよろしく願いいたします。

この出会いから対面の朗読へとつながり、出会いの場はもう長く続き、楽しいひとときを過ごしています。

日本赤十字社は災害援助、医療、福祉他 様々な奉仕活動に尽力し、心より感謝申し上げます。同時に利用者としての、思い出と今を書かせていただきました。

(墨字訳 久保田加奈女)

金梓感謝状(10年) 古川直子さん(ことばの花束)

「え！もう10年経ったの？」というのがお知らせをいただいた時の素直な気持ちで、同時に、5年前の美しく紅葉した木々に囲まれた兵庫県公館での初めての授賞式が鮮やかに脳裏に浮かんできました。

スマホで5年前に遡って、正面玄関で撮った同期3人が写った写真を探しました。こうべ市民福祉交流センターで「朗読ボランティア講座」を受講し、「ことばの花束」グループに入った3人の同志でした。何もわからないまま飛び込み、優しい先輩方に手取り足取り教えていただきながら、無我夢中でいろいろな事を学び、共にデージーCD制作をしたり、単行本発受のお当番をしたり、レクリエーションでいろんな所に行ったりしました。

今、残っているのは私だけ。Hさんは、ご家庭の事情で忙しくなり、ボランティア活動を点訳だけに集中することに決めて2年前に退団しました。そして、当時、「ことばの花束」の代表を務め、素晴らしいリーダーシップで、グループの規約の見直しや過去の文書類の整理を率先してやってくれたSさんは突然の病に罹り、3月の引継ぎまではグループの総会資料を完璧に作成するほどがんばったものの4月より休会、そして6月に帰らぬ人となってしまいました。「これから自宅でも録音ができるようにしてどんどん録音図書を作りたい」、「近い将来、本部役員になって声奉をもっと盛り上げていきたい」と、いちばん積極的でやる気に溢れ、常に笑顔の絶えない人でした。

3人が初めて「花時計」制作に参加したのは2014年2月号。「ぐりとぐら」誕生から50年というコーナーで絵本の朗読をしました。

また、元兵庫県立盲学校の先生で、歌が上手く、文筆活動も活発にされていた故増田守男さんの遺稿集の音訳を、日赤声の図書のリスナーでもある県立盲学校の後援会会長よりご縁があつて依頼され、Sさん、先輩のFさん、私の3人で分担してプライベート図書として制作しました。Sさんの朗読したツバメの家族の創作童話は、生き生きと楽しそうなツバメの飛行の様子が印象的なとてもいい作品になりました。

高齢者となった今、あとどのくらい続けられるのだろうかと不安はありますが、Sさんや私たちを育ててくださった先輩方の思いを大切にして、声の図書赤十字奉仕団の活動に微力ながら尽力していきたいと思います。

銀梓感謝状5年) 中村律子さん(こすもす)

“銀梓感謝状受賞に寄せて”

まず、入団のきっかけは神戸市の朗読教室の講座を受け、何となく訳も分からず、続けたいと思っていたところ、講座で一緒だった方の紹介で今日赤傘下の音訳グループに入りました。入団のきっかけとしてはとても軽い勢いでしたね。

入団してからは

グループの人との小説の分割読み。PHP の読み。「花時計」の制作の読みなど。まだ、小説とか丸々一人で読むところまでは至っていません。PC 操作もしっかり勉強しています。私としては頑張っています。

銀梓感謝状を受ける事については

取り戻す事の出来ない 5 年。有難く受けることにしました。が、今は少々後悔しています。何故なら、「みなと」への寄稿を依頼されて、苦労しながら原稿を書いているから。でも、次いつ感謝状が貰えるか？ そこまで続けていられるか？ ここはやっぱり笑って頂きます。有難うございます。

音訳は、聞いて下さる視聴者の判断での出来のよし悪しが決まります。当然です。とは言え、読み手本人の判断も必要。それでいくと思ひとは裏腹に上手くいかない。滑舌、アクセントも間違えず、変な抑揚を付けず、適度なスピードで。となると至難の業。他の人の校正も大変。こんな大変な事、仕事でもなしボランティアだから、いつ辞めてもいいのにとこいつつ辞めない！ 辞められない！ 何故か。禁断の世界から抜けられない？ 誰かの役に立てるから？ いや、やっぱり次の感謝状を貰いたいから？ どちらにしても、もうちょっと頑張ります。

皆様応援して下さいね。

よろしくお願いします。

有難う御座いました。



デイジー班

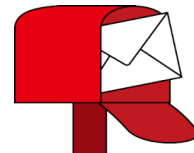


デイジー発送作業に参加してみて

発送作業といっても、CD を拭いて ほこり取りをして ケースの破損確認 ちょっとした修理 点字のラベルを貼り 名簿の確認 送り状となるカードとつきあわせ 数のチェック... 色々な工程がありました。

今回 私は、午前中だけお手伝いをさせていただいたので 作業は、ここまで。
この後データー入力された CD とカードを送付用のバックに入れていくんだらうな。
数が減ってきていると聞いていますが、160 超のものを一つ一つ丁寧に扱われていた。
つたない私の音訳もこの CD の中に入っている。頑張ろうと思いました。

中野尚美（そよかぜ）



点字班



私が点字班に参加し始めたのは昨年の4月です。このたび機関誌「みなと」への原稿を依頼され、「まだ新人の私がいったい何を書けば？」と困惑しつつこの原稿を書いています。

点字班は毎月第2火曜の10時から15時まで日赤ボランティアルームで例会・学習・作業を行っているのですが、点字に初めて接した時は、墨字という言葉も知らず、1年半近く経った今も墨字を参照しつつ点字一覧表を見ながらでないと点字は読めません。

私の場合、2年前の2021年9月に神戸YWCA 声の奉仕グループに入会して、このグループが兵庫県声の図書赤十字奉仕団にも所属しており録音図書の著作権の許可を得ていること、そして神戸YWCAの他に6つのグループが所属して活動していることを知りました。

入会した年は毎月第4火曜に神戸YWCAの例会・勉強会で朗読の学習、指導を受けていましたが、グループの枠を越えた日赤での作業班にも参加することを勧められ、神戸YWCAのメンバーがいない点字班に参加することになったのです。

声の図書赤十字奉仕団や点字班の活動についてよく理解していないまま参加して今に至っているわけですが、7月例会の午後、団員向け点字講習会が開催されたので、その様子感想も交えて紹介します。当日は4グループから7名の参加者がありました。

点字講習会はまず点字と墨字の説明から始まり、点字の約束ごとや数字の書き方、点字のマスあけについての説明の後、実際に点字器・点筆を使っての体験です。自分の名前、当日の日付を書いた後、各自が見本を見ながら点字でメッセージを書き、リボンをつけてメッセージカードが出来上がりました。参加者の皆さんは大変熱心に取り組まれ、出来上がったメッセージカードを記念に持ち帰られました。講師の石田さんの説明は非常に分かりやすく、私も点筆の持ち方など改めて基本的なことを学べ、大変有意義な機会となりました。習いたての頃、点字を左から書いてしまうという失敗をしたおかげ(?)で、書く面と読む面の違いはしっかり頭に入りました。洗濯機についている「切」と「入」ボタンの下に点字では「オフ」と「オン」と書いてあり、エレベーターの「ひらく」と「とじる」ボタンの上には「あけ」と「しめ」と点字で書いてあることが分かったと、点字の解読が謎解きのようで興味深くなりました。私のように点字に関心を持ってくださる方が増えたら嬉しいです。



山崎恵（神戸YWCA）

朗読・音訳を見直す会



コロナ禍になってマスクの着用が当たり前になった生活が長く続きました。それによって様々な弊害をもたらしています。ここでは、音訳をする私たちに大きく関係する滑舌と声について取り上げてみたいと思います。

マスクを着用している時、あなたの口はどうなっていますか？マスクの中でしっかり口を閉じておられる人はほぼいません。多くの人は呼吸がしづらいので口が開いたままになっています。つまり緊張をしていない、だらんと力が抜けた状態になっているのです。その状態が長く続くことで表情筋や舌の筋肉は衰えます。

滑舌は舌の動きと口の動きにより決まりますが、舌も口も全て筋肉によって動かされますので、表情筋や舌の筋肉が衰えるのは大きな問題です。

口が閉じている時は、普通は舌が上顎にペタッとくっついていています。もし、舌と上顎に隙間がある人がおられたら要注意です。舌の筋肉の老化が進んでいます。赤ちゃんが、何も教えなくてもミルクをちゃんと飲めるのはなぜでしょう？舌が上顎についているからです。物を飲み込む時、舌は上顎にくっつきますよね。口を閉じている時に上顎にくっついていてのが舌の正しい位置で、そのように私達は生まれてきています。滑舌だけでなく、いつまでも美味しく食事をする為にも舌の筋肉の老化は防ぎたいものです。誤嚥性肺炎予防にもなります。

また、表情筋が衰えるということは、肌の張りが減り老けた印象になるばかりでなく、声も低くなります。なぜなら、頬骨の位置が下がるからです。年齢とともに声が低くなっている原因の一つです。笑顔の時の声は自然に高くなりますよね。笑うことで頬骨が上がるからです。

マスクの着用が自由になりましたが、まだ油断が出来ません。まだマスクを着用することは多いかと思いますが、マスクを着用していても口を閉じて鼻呼吸を心掛けましょう。そして出来れば、閉じた口はへ字でなく口角をあげて笑顔の口で。表情筋のトレーニングになっているばかりでなく、不思議と気持ちも明るくなりますよ。

山木梨花（はあもにい）



単行図書検討会

兵庫県声の図書 赤十字奉仕団の蔵書（単行図書）は計 290 冊になろうとしています。1 冊 1 冊多くの作業を経て完成し、リスナーに貸し出されています。今回は作業の流れを紹介します。

選書

- ・リクエスト本 🖐️ リスナーからの録音希望の本
- ・推薦本 🖐️ 単図会または団員推薦の本
- ・自薦本 🖐️ 団員が音訳したい本（単図会で了承されたもの）
- ・プライベート本 🖐️ リスナー個人の希望で蔵書としない本

録音者を募集・依頼する

録音準備

本の構成により、レベル（階層）などを決めます（**枠アナウンス用紙**参照）

図書録音台帳記入 編集の方針を決め、必要なら処理打合せ表・調査表に記入

録音

枠アナウンス用紙に従い録音し、必ず自校正をする

（本・録音メモリー・図書録音台帳は、図書が完成するまで校正担当者に渡す）

デイジー編集

（録音者・校正者）

単行図書仕様書に記入し、**編集チェック表**に従い編集する

一次校正

始めから通して校正する
校正表に記入し録音者に
訂正してもらう
訂正箇所をチェック

二次校正

始めから通して校正する
一次校正の漏れをチェック
訂正箇所をチェック

デイジー校正

（単図会にて担当者を決定）
デイジー編集のみの校正

登録・CD化

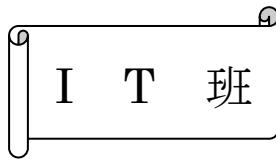
単図会にて蔵書を登録・保管
マザーと貸出用CDを作成

貸出準備・貸出

ことばの花束グループが
リスナーへの発受を担当



神坂順子（こすもす）



I T 班の経緯とご協力お願い

私が声奉の“はあもにい”グループに入団して10年目に入りました。2019年4月に声奉の委員長に就任し、I T（情報技術）を活用し声奉の活動を少しでも円滑に進めたいと思い取り組んできました。最近入団されたかたも居られるので、今日までのI Tの活用経緯を振り返ってみたいと思います。

最初に取り組んだのは、2019年5月本部役員対象のメーリングリストです。最初は半信半疑のかたも居られたようですが？役員間での情報を共有しスムーズな事務処理にも役立ったと思います。

明けて2020年新型コロナ禍で緊急事態宣言発令に伴い、3月17日から約2か月間ルームでの活動は全面休止という事態になり、集合形式の総会も開催できなくなりました。苦肉の策でインターネットのホームページとメールの活用で、「ネット総会」という形で切り抜けることが出来ました。

2020年5月中旬、緊急事態宣言は解除されましたが密を避けての活動という制約があり、ルームでの多人数での活動が出来なくなりました。その為従来の予約ノートに個人々々が記入する方式から、メールによる利用申込方式を採用し、ホームページで予約状況の一覧表を確認できるようにし、密を避け感染予防に努めてルームでの活動が行えるようにしました。

2021年度に入り、総会は2年連続で「ネット総会」で実施しました。新たに運営委員間でメーリングリストを結成し、各グループ間で情報を共有し活動を進めやすくしました。

その他I T活用としては、総会の資料作りやリンク集（ホームページ）を立ち上げ、各種日程確認や用紙のダウンロード他いろんな情報をホームページから取り込めるようにしました。

一方機材関連では、2021年5月、機材チームとI T関係を統合し一つの作業班（I T班）として発足。P Cの購入や小ブースのマイクセットの購入及びセッティング、ウインドウズのアップデートやトラブル対策等環境の改善に努めて来ました。

現在I T班は、3名の班員とゆうゆう会から1名出向いただいて、4名で分担してリンク集のアップや機材管理等の作業を行っています。今後のことを考えると班員の増員と後継者の育成が急務と考えます。ご協力を頂ける方募集しています。一緒に声奉活動に有益なI Tの活用方法を考え進めて行きたいと思います。

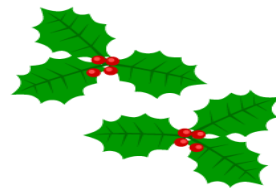
I T班の例会は、奇数月の第2月曜日14時からです。見学歓迎です。日時が合わない方はその他の日時でも相談させていただきます。お気軽に声を掛けて下さい。どうぞよろしくお願いします。

足利 教治（はあもにい）

リスナーだより

香山良樹様 2023.7.27

日赤「声のアルバム」大変勉強になりました。
障害者の情報をお願い致します。



牧野まりえ様 2023.10.26

こんにちは

「声のアルバム9月号」も楽しませていただきました。
中でも PHP の中で PHP 賞受賞作「優しさを教えてくれた息子」に心打たれました。
また「やまなみ」の中の100年生き抜く京都の老舗「平野とうふ」の記事に感銘をうけ、ご夫妻に心から応援させていただきました。

リスナーからのお便り、長いのは一部省略させていただきます。他に届いているお手紙とともに、ボランティアルームのホワイトボードに掲示していますので、ご覧ください。

2023年11月1日付団員数

グループ	団員数
神戸YWCA	11
こすもす	18
ことばの花束	18
青年	21
そよかぜ	18
ともしび	9
はあもにい	12
ゆうゆう会	3
正規団員数	110
賛助団員	2

